

## 令和3年度第1回山形県図書館協議会 会議録

日 時： 令和3年7月29日（木）13:30

会 場： 「遊学館」3階 第1研修室

### 1 開 会（三宅副館長）

### 2 あいさつ（佐藤館長）

本日はお忙しい中、図書館協議会にご出席いただきありがとうございます。委員の皆様方には日頃から県立図書館の運営にご理解とご協力を賜り、この場をお借りし感謝申し上げます。

ご承知のとおり、県立図書館は一昨年度の大規模改修により施設の拡充を図るとともに、リニューアルオープンに合わせ開館時間の延長などサービス向上を図る等、機能が大きく向上し、この空間を活用した各種企画展示、学校やNPO法人様などの関係機関との連携による各種イベントを実施するなど、コロナ禍が落ち着かずに制約がある中で、図書館の魅力の発信に努めてきたところです。

今後とも取組みを充実させてまいります。市町村図書館や学校図書館との連携や県全体でのサービスのあり方など、県立図書館がその役割を果たしていく上での課題も残されています。

今年度は生まれ変わった図書館の活性化を推進していくために、平成26年度に策定した「県立図書館の将来のあり方について」及び平成27年度策定の「県立図書館活性化計画」を総括した基本方針や取り組む施策等を盛り込んだ新たな計画の策定を予定しています。

本日はこの5月に実施した「県立図書館利用者アンケート」についてご報告申し上げ、新たな計画の概要について皆様方からご意見を頂戴したいと存じます。県立図書館が全世代の皆様にご利用いただける「ときめく、たよれる、つながり・ひろがる図書館」として活性化を推進していくため、委員の皆様方には忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

### 3 報 告

#### (1) 県立図書館の利用状況等について（中村経営主幹）

資料1に基づき説明

#### (2) 県立図書館利用者アンケートの結果について（東海林企画主幹）

資料2に基づき説明

#### 〔質疑等〕

(北口委員長)

イベントがいろいろありますけれども、以前と比べて集まり方はいかがですか。人数制

限なども設けてあったりするのでしょうか。

(東海林主幹)

お手元にサマーフェスタのチラシをお配りしております。四季折々の賑わいづくりということで季節ごとのイベントを実施している状況です。

四角囲みの中段になりますけれども、「外国絵本、国際交流員によるお話会」、「誰かに話したくなる夏の星空物語」、「理科読でキラリと光る！読み聞かせ」という3つのイベントがこれまで終了している状況で、それぞれほぼ定員どおりのご参加をいただいております。まずまずの集客の状況と考えております。

(井上委員)

今のサマーフェスタのチラシを拝見させていただいているのですが、その中段のイベント開催済みのものは今お話を伺ったとおりでと思うのですが、今後の予定というのはどういう感じになりますか。

(東海林主幹)

下の段のほうの「高校生のための税の作文教室」は、申込みが少ないというような状況です。初めて高校生向けのイベントとして取り組んでみたところもありますが、こちらはちょっと苦戦している状況です。

「花笠まつりの余韻をもっと楽しもう」は、定員なしでご来場者から聴いていただくというものになります。

「ドローンプログラミング教室」は、定期的に行っているイベントで、毎回ほぼ定員どおりの参加をいただいている状況です。

一番上の黒木あるじ氏の「怪談」は、図書館の開館時間が午後8時まで延びているということのPRも含めて、今回夜のイベントということで初めて開催したところです。今のところ約半数位の申込みをいただいている状況ですが、県内のコロナ感染も非常に大きくなっているということがあり、そういったことも踏まえて今後の募集活動を展開していきたいと考えております。

(井上委員)

「中止する場合があります」とか、そういったことにもなってくる世の中だと思いますが、このチラシとかそういうイベントの発信のやり方については、このチラシを配る、ホームページで広報する、そのほかに何かをされていたりしますか。

(東海林主幹)

なかなか発信には苦戦している状況にありますが、各市町村立図書館にチラシをお配りしているところです。

(井上委員)

黒木先生の場合だと130名ということでありましてけれども、定員20名とか少人数ぐらいのイベントであればこのぐらいの発信でいいのかもしれないのですが、黒木先生ぐらいの100名以上とか、更にビッグネームの方を呼んでみるとか、小さなことを少しずつ

やるのもいいのですが、緩急をつけるというか、少しビッグネームを呼んで、「え？山形県立図書館、こんな人を呼ぶんだ。」みたいな感じのイベントがあつたりすれば、ちょっと県民の見方も変わるのではないかなと感じました。

アンケートの中で、SNSの発信の仕方について、ホームページとフェイスブックが中心という感じを受けたのですが、やっぱり今の時代、失礼ですけど、フェイスブックはもうシニア層の住処になっていて、主にツイッターですとか、インスタグラムですとか、はたまたティックトックですとか、若いスタッフさんいっぱいいらっしゃるので、例えば動画を発信しておもしろくでもいいし、かつ、言いたいことは自分でまじめに言うとか、そういった変化球があってもいいのではないかなと感じているのですが、それについてはいかがでしょうか。

(東海林主幹)

最初のビッグネームのところですが、今年度はシーズン毎のイベントを予定しており、夏季はコロナが落ち着かない状況にあるのではないかと想定し、比較的小規模なイベント構成としたところです。

それから発信ですが、利用者アンケートを実施し、改めて図書館利用者のフェイスブックの利用状況がわかったということがございます。次に審議いただく計画のほうにも入れておりますが、ツイッターなど、もっと多くの方から情報に触れてもらえる媒体での広報を考えていかななくてはいけないのかなと考えております。

(伊勢委員)

利用状況の説明に関してお伺いしたいと思います。入館者数、若干上がったのですが、このコロナの影響で、どちらかと言うとインターネットを結構見る方がいるのかなと思うのですが、例えばホームページのアクセス数とか、その辺は何かわかるものなのでしょうか。比較といいますか。

(東海林主幹)

ホームページはカウントを取っておりますが、今のところ比較はしていないというところです。

(伊勢委員)

わかりました。年度別とか月別のアクセス数なんかわかると、インターネットからどのぐらいの方々が情報を得ているのかということも比較できるのかなと思ったところです。それと、私もときどき図書館のホームページを見るのですが、今あったように、このイベント情報はちょっと探しにくいと感じました。お知らせはあるのですが、例えばお知らせとは別枠でイベントの粋みたいのがあって、今月のイベントみたいなのがあると、すぐそこから見られるのかなと思ったりしたのですが、ちょっと分かりやすい何か工夫があるといいかなと思ったところでした。

(東海林主幹)

伊勢委員がおっしゃるとおり、「今日はどんな展示をやっているのだろう？」とか「イベ

ントは何やっているのだろう？」ということが非常に分かりづらいという声を頂戴していたところで、まさについ先日から図書館のホームページのトップページの中に「イベント情報」という項目を設けたところです。

8月のイベントからカレンダー形式で公開してございます。今後、様子を見ながらより良い情報発信になるよう努めてまいりたいと考えております。

(伊勢委員)

わかりました。ありがとうございます。イベントカレンダーはいつできましたか。

(東海林主幹)

一昨日できあがりました。

(伊勢委員)

そうですか。あと、チラシのほうを見るといろんなイベントをなさっていて、このドロンプログラミングは定例でやっているということですが、私なんか遠くからこちらに足を運ぶ者としては、定例のイベントが結構あったほうが、1回限りのイベントだとなかなかそれを見逃してしまったりして、参加できないということがあるのですが、定例でやっているということが分かると、行きやすいかなと思ったところで、こうした定例があればいいなと思っております。

(太田委員)

利用者アンケートの結果の中で、興味・関心がある企画ということで取っていただいているのですけれども、これは項目としてはこういった大きな括りでの企画ということでのお示しだったのでしょうか。

(東海林主幹)

実際の設問は、資料2-2の問6の①、②になります。こういった大きな形で、今回は設問にさせていただいたところです。

(太田委員)

例えば、「どのような企画を望みますか？」などというようなアンケートなどは、過去にあったのでしょうか。例えばもっと「幼児・児童の心を育む展示」という大きな括りではなくて、例えば夏休みの、もう少し何かに特化したというか、というのはありますか。

(東海林主幹)

これまでは実施していない状況です。

(太田委員)

実は今、山形県では世界農業遺産への登録ということで、紅花の記事が山形新聞にも、今年度はかなり頻繁にいろいろな市町村の記事が載っていたり、小・中・高の取組みの記事が載っていたりして、そういった紅花企画展みたいのがあればちょっといいかなと思いました。5月にちょっとおじゃました時にイルブルさんの前にちょっとしたミニ企画展みたいのがあったのですが、「ああ、欲しいな、この資料」とか思いながらも、そういったものの資料展示企画があるといいなと思ひまして、例えば「こんな紅花の企画をしてほしい。」

というようなことを募っていただけたらありがたいなと思いました。

かなり膨大な資料をお持ちだと思いますので、そういったものを企画展示していただけるとすごくありがたいなと思って、感じていたところでした。

(東海林主幹)

企画展示とかイベントについては、細分化した設問は設けていませんでしたので、今後そういうところ、より具体的に求められているかというところも、合わせてやってみたいと思います。

イベントは、その実施に合わせてアンケート調査を実施しておりまして、それには「今後どういうふうな講座を望みますか？」という設問を記載いただいておりますが、企画展示ではそういったことをしておりませんので、どういったことができるか考えてみたいと思います。

(北口委員長)

今現在は「滝」ですかね、水の企画をされていて、館内の涼しさを感じる企画だなと思って、「紅花」もご覧になったということですけども。

では続きまして、協議に入りたいと思います。

## 4 協 議

### (1) 県立図書館の新しい計画の概要(案)について(東海林主幹)

資料3～5に基づき説明

(北口委員長)

では協議ということで、資料4です。左側のほうはⅠ、Ⅱ、Ⅲと、それぞれ、このようになっております。右側の「Ⅳ 取組み方策」というのが、左側を経て具体的にかなり細かい方策があってというところですけども、左側の大きな理念のところ、あるいは右側の各細かい方策について、この案でよろしいのかというところが焦点になるかと思っておりますので、ご意見等、よろしく申し上げます。

(北口委員長)

令和7年度というとは4年後ってということですよ。4年後にどのような県立図書館になっているかというところ、Ⅰ、Ⅱ、右側の取組み方策を細かく行っていったら、あとは「目指す姿」ですね。これは今後の宿題になるのかなと思いますけれども、キャッチフレーズですかね。ここを考えるとということにも焦点があるかなと思います。

(太田委員)

3つの行動指針の「ときめく、たよれる、つながり・ひろがる」が、どの世代にもわかりやすい素敵なキャッチコピーというか、目標の表現だな、目指す姿だなというふうに思いました。

あと、取組み方策のほうも具体的に資料等でお示しいただいておりますが、ちょっと質問も

よろしいでしょうか。「インターネットを活用した利便性の向上とデジタル化の推進」というところで、「つながり・ひろがる図書館」の④のところなのですがすけれども、長期保存対策に必要な利活用の推進ということで、1つ目のポツで、郷土資料のデジタル化ということで、かなりの作業量になると思うのですがすけれども、ぜひお願いしたいなと思います。

実は以前、新聞の記事を改めてコピーしたくてお訪ねした時に、昭和30年代のはマイクロフィルムになっていて、マイクロフィルムで資料をコピーさせていただいたのですがすけれども、結局は学校で保管しているものと変わりなかったというようなところもありましたが、それはすごくありがたいなというふうに思いました。

「たよれる図書館」のところで、「県内図書館全体のサービス充実に向けた県立図書館の役割の発揮」の②県内図書館を支える職員等の研修の充実というところで、学校図書館の図書委員に対する研修等への協力ということで掲げられているのですがすけれども、これは具体的には対象の学校、地域、そして研修内容というのはどのようになったのでしょうか。本年度、学校のほうにも案内は入ってきたのですが、県立図書館からの案内だったか、山形市立図書館からの案内だったかというか、そこがちょっとうろ覚えで教えていただければありがたいなと思います。

実際、山形市内の小中学校の場合は図書整理員という方々が図書室のほうにいらして下さって、毎日4時間くらいですがすけれども、図書の仕事を担ってくださっています。司書教諭がいるのですがすけれども、すべての学校で司書教諭が時間を割いて学校図書館の推進役を担っているというところがなかなか時間的に難しく、整理員の皆様方に少し仕事をお願いしているというところがありますので、そこをちょっと教えていただければと思います。

(東海林主幹)

最初いただいたデジタル化ですがすけれども、やはり、委員がおっしゃるとおり非常に重要なことと考えておまして、確かに作業量は膨大ではあります。あわせて予算も非常にかかる分野ですので、少しずつでも実施していきたいと考えております。

それから図書委員研修については、協力という形にさせていただいているというのが現状で、その方が利便性が高いと思っております。様々な研修で図書館を見学してみたいというお話をいただいております。そういった研修に協力していくということが第一かなと考えております。そのほか、図書館職員向けの研修も実施しておりますが、そのご案内を申し上げますのは、県立学校がメインになっている状況で、市町村立学校は市町村立図書館さんをご担当いただける分野と考えております。

(井上委員)

活性化推進計画ということですがすごく緻密な計画を立てられて、4年後どうなっているかすごく楽しみだなとお話を聞いていて思いました。

それで、私から2つあるのですがすけれども、まず「ときめく図書館」という項目の中から「乳幼児から高齢者まで生涯にわたり利用できる図書館づくり」というように掲げられているのですがすけれども、このたび改装されて、レストラン「イルブル」が入居されましたが、私

の個人的な意見というか、子育て情報誌を作っているひとりの人間から申し上げますと、カフェと図書館がもうちょっと連携して盛り上げてもらえるんだと思っていました。イルブルさんのインスタも、拝見させていただいていて、図書館と連携した「カラスのパン屋さん」のカラスの足跡パンは、私も認識しているのですが、もっと連携して欲しいって言うか、例えば、子どもに特化したカフェメニューとか、カラスのパン屋さんのパンのあとに何かいろいろしてくれるんだらうなと思っていたらそれきり、なんかあまりなかったのが残念です。もうちょっと踏み込んだ内容とか、イルブルさんの要望もあると思いますし、どのような状況になっているのか私にはわかりませんが、図書館のほうからリクエストするのか、イルブルさんで興味があっという、できることできないことももちろんあると思うのですが、そういったことがどのような感じになっているのかと。

そして、こどもやママのハートをグッと掴むようなことを掲げることによって、来館したことのない人も「行ってみようかな。」とか、行ってみたら「また来たくなる、また来ようね。」とか、そういうふうな方向で行ければいいのではないかなという思いです。

もう1つが、3番の「つながり・ひろがる図書館」の中の、「インターネットを活用した利便性の向上とデジタル化の推進」についてです。関係ないかもしれませんが、ほかの県の情報とかを見ていますと、図書館利用カードのデジタル化、スマホも皆さん1人1台の時代で、シニア世代もらくらくホンなどでもスマホだったりされるじゃないですか。その中でもうカードの時代は、バーコードの時代はもう終わり、スマホも1人1台持っている時代なので、その4年後を見据える中でそういった展開というのはどのようなお考えでしょうかという2点です。

(三宅副館長)

イルブルとの連携については、大切だと考えているのですが、毎月イルブルだけでなく、館内の施設の連携会議というのがありますので、できるだけ館内の施設は連携していこうということでイベントなんかもお互いに協力してやっていこうということでやっています。

イルブルについては、元々パスタが専門ということですが、最近はパンのほうに力を入れているということもあって、こちらのほうで企画した場合はその都度お願いしているのですが、なかなかイルブルさんにも都合があるので、すべて叶えることはできないのですが、引き続き連携して、できるだけカフェと図書館一体となった取組みをやっていきたいと考えております。

(東海林主幹)

2つめのスマホによる利用者カードというところですが、システム上のことになりますが、今の利用者カードは、カードに何を借りたかということを書き込めるような、ライトカードというもので、全国的にも数は少ないですが、そういったシステムで運用しています。

スマホにそういった機能が入ると利便性も一定向上するのだらうなとは思っております

が、システム上のことがありまして、そこまで進んだシステムを持っている県も承知していない状況です。今でもスマホに利用者番号をバーコードで表示される機能があるのですが、実際スマホですべてが終わるというところには、まだ至っていない状況です。他県の状況、それからシステムの今後の進化というものを踏まえて考えていきたいと思っております。

(伊勢委員)

私からは、郷土資料という話ですけれども、いろいろなものをデジタル化して郷土資料などを収集・保存するということだと思うのですが、最終的には利活用をどうするかというところだと思います。それで今、子どもたちが GIGA スクール等でそういう ICT を活用する場面が非常に多くなってきているわけで、ただ、今足りないのは、足りないというか、なかなか先生たちも苦労しているのが教材だと思います。

例えば、山形県の郷土資料を活用したデジタル教材の見本みたいなものがあると、「ああ、こういうものが作れるんだ。」と学校の先生たちがそれに気が付いたりするのかなと思ひまして、そういうサンプル的なものがあると具体性が出てきて、こういう活用ができるんだなということがあると思うので、この推進計画の中でそういったところまで、もしかしてやられるのかもしれませんが、そういう具体的なものができればいいかなと思ったところです。

縣人文庫なども展示していますが、その存在を知らない若者がたくさんいるので、そういうものを例えば教材にしてみるとかですね、そういう別の方法で広めることもできないかなと思ったところです。

あとは電子書籍に関しても、いきなり電子書籍とはならないと思うので、事前のリサーチも必要だと思いますし、既にそういうリサーチが始まっているのかちょっとわかりませんが、ほかの事例とかですね、先進事例とかリサーチなどしていただいて、山形県らしいものができればいいかなと思ったところです。

あとは、やはり市町村にある図書館と県立図書館の差別化って言いますかね、なんか役割分担って言いますか、そこがちょっと、私もよくわかっていませんけども、連携をしてやっていくということが非常に面白いなと思ひましたので、地域の図書館と県立が連携して、県立図書館でやっているイベント等を、そのままほかの市町村の図書館でもそのイベントを開催できるとかありましたけど、そういったものは非常に面白いと思ったところです。

あとは、ジャパンサーチとの連携もぜひ推進して行ってほしいと思ひました。

それから郷土資料のデジタル化をした時に、例えばパブリックドメインということで誰でも利用できる素材といいますか、ニューヨークの図書館だと、図書館の職員が全部写真・画像をデジタル化、職員自身がデジタル化して、それを全部ネットで公開していて、それがパブリックドメインになっているので誰でも利用できるんですよ。そこには日本のいろいろな写真なんかは実はニューヨーク図書館に保管されていて、日本にはないものがニュー



ヨークの図書館にあたりるので、そういった昔の写真とか、葉書でもいいと思います、絵葉書とか。パブリックドメイン的に誰でも使えるようなデータがあると、そういったものを先生たちが教材として取り込んでいたり、そういった活用もできると思うので、ただ保管するだけではなくてそれをどうやって活用するかというところもぜひ目を向けていただきたいと思います。

(東海林主幹)

GIGA スクールの対応で、デジタルデータについて、学校の状況やニーズがどうなのか、図書館としてもアンテナを高くして見ていきたいと考えております。パブリックドメインについては、図書館が持っている情報をデジタルで使えるような取組みは進めていかなくてはいけないなということでは考えております。

その中で、今おっしゃっていただいた縣人文庫の活用というところは私どもも考えていなかった視点でございますので、利用できるようなものを、ぜひ伊勢委員のスキルもいただきながら考えていきたいと思っております。

電子書籍の導入については、長短あるということと、予算規模もかなり大きくなるということもありますので、他県の情報等も見ながら引き続き検討してまいります。

市町村との連携につきましては、展示でのまると貸出はもちろんですが、県立で実施する講座を市町村立図書館でも配信するというふうな、パブリックビューイング的な講座も、現在、ズーム会議等のシステムもありますので、積極的に展開していきたいということで各市町村にも意向等も確認していきたいと考えております。

(北口委員長)

さまざまな意見が出たかと思えますけれどもよろしいでしょうか。

では私のほうからは、この取組み方策の⑤番ですね、ユニバーサルデザインとありますが、細かいところでは読書バリアフリー法というのも既に施行されておりますけれども、健康な方が一時的に読めないというかですね、そういったところの対応からもこの電子書籍、読み上げ機能とかもありますので、予算の際のひとつの根拠にされたらいいのかなというふうにも感じました。

また、いろいろな、新たに情報をというのも大変かと思いますが、山形県立図書館のほうではレファレンスブックのパスファインダーですかね、とても立派なものがありますので、私も紅花関係で一度見まして、ちょっとストーリー的なものもあって、図書館の資料を具体的に活用することで解決するというような流れがもうこのように作られて、蓄積があるかと思っておりますので、それを今後提供の手段ですかね、動画的な形ででもいいのかなと思うんですけれども、今ある情報をちょっと変えて増やすというのもありなのかなと伊勢委員のお話を聞きながら思ったところでした。

というところで確かに、4年後の ICT が本当にどのようになっているかというところは井上委員のおっしゃるとおりだなと思ったところですが、その中でもその方針ですと、ICT の活用というところで状況に応じて解釈できるのかなと思っておりますので、ぜひ後日、

対策をまた練っていただきまして、よりよい計画となりますようよろしくお願い申し上げます。

では、今後の策定スケジュールについてお願いします。

**(2) その他（東海林企画主幹）**

資料6に基づき説明

**6 その他（三宅副館長）**

次回の協議会は、11月下旬から12月上旬を予定。

**7 閉 会（三宅副館長）**

以上